

ニワとよばれるところは、土間と板の間いたまになっていて、台所と居間いまに使い、土間のカマドでまきや木のえだをもやし、ごはんをたきました。

家の中では、いろりろ（炉）がもっとも大切な場所でした。家ぞくはとくにニワ（居間）にあるいろりのまわりでさぎょうをし、食事をし、だんらんをしました。いろりはだんぼうであり、ごはんをたいたり、おつゆをにるコンロでもあったのです。

その家での主人である、お父さんがすわるところを横よこ座ざとよいました。ほかの人にはすわらせませんでした。



いろりのようす

(酒井三良画)